Malignant Hidroacanthoma Simplex

Malignant Hidroacanthoma Simplex の 2 例

小芦 雄介* 三尾 清春* 後藤 章夫*
北島 進司* 辻 卓夫*

Summary

Two cases of malignant hidroacanthoma simplex are reported. The first case was a 73-year-old man with a tumor on his left thigh of six months duration. The tumor was brown-black keratotic, measuring 1.0×1.0cm. The other case was a 86-year-old man with a tumor on his back of four months duration. The tumor formed a grouped, red papular lesion measuring 1.5×1.5cm. On histological examination, the tumors in both cases showed a well-defined, intraepidermal nest formed by small, cuboidal cells. Some of the cells had atypical nuclei and abundant cytoplasm, but dermal invasion of the cells was not seen. The epidermis was acanthotic and hyperkeratotic. Differentiation of the tumor cells to small ductal structures and cystic areas were also seen in both cases.

Key words : Malignant hidroacanthoma simplex, Hidroacanthoma simplex, Eccrine poroma, Eccrine porocarcinoma

simplex の 2 例を経験したので報告する。

はじめに

1956年 Smith & Coburn¹⁾は eccrine 表皮内汗管由来の腫瘍で、腫瘍細胞の増殖が表皮内に限局しているものを hidroacanthoma simplex と命名し、さらに benign type と malignant type に分けて報告した。また malignant type は表皮内にとどまる *in situ* type と真皮へ侵入する invasive type に分けられる。今回我々は *in situ* type の malignant hidroacanthoma

症 例

症例 1 : 73歳, 男性

初 診 : 平成 8 年 7 月 9 日

主 訴 : 左大腿伸側の黒褐色結節

家族歴 : 特記すべきことなし。

既往歴 : 昭和50年頃, 喉頭癌手術。平成 7 年 12 月から多発脳神経炎で当院内科にて加療中。

現病歴 : 初診の約 6 ヶ月前に左大腿伸側の皮疹に気づき、徐々に増大してきたため当科受診した。

現 症 : 左大腿に径約 1 cm 大の境界明瞭な黒褐色の角化性の結節を認め、一部周囲に淡い

* Yusuke KOASHI, Kiyoharu MIO, Akio GOTO, Shinji KITAJIMA, Takuo TSUJI : 名古屋市立大学皮膚科学教室 (主任 : 辻卓夫教授)

紅斑を伴っている(図1)。下床との可動性は良好で、自覚症状はない。所属リンパ節は触知しない。

病理組織学的所見：角質増殖と表皮肥厚があり、全体として upward growth である(図2)。表皮内には境界明瞭な腫瘍細胞の nest が認められる。腫瘍細胞は正常な poroma と同じような異型性の少ない基底細胞様細胞、胞体の明るい細胞、細胞質の好酸性が強く角化傾向のある細胞からなっている。所々で管腔を形成し、一部では囊肿状となり、散在性にメラニン顆粒を有している。真皮上層はリンパ球を主体とする細胞浸潤とメラノファージが認められる。腫瘍の一部には良性の poroma 様の nest も認められるが(図3)、腫瘍細胞には核の大小不同、濃染などの異型性のある部分も認められる(図4)。ほぼ *in situ* の病巣だが、真皮上層の炎

症細胞浸潤のためか、腫瘍と真皮上層の境界部が一部でやや境界不明瞭になっている所もある。しかし、明らかな真皮内浸潤は認めない。

治療と経過：脂漏性角化症を疑い、まず腫瘍から 1 mm 離して切除した。Malignant Hidroacanthoma Simplex と診断し、局麻下にさらに 5 mm 離して、脂肪層深層で再切除した。術後 1 年経過するが、今のところ再発はない。

症例 2：86歳、男性

初 診：平成 9 年 2 月 14 日

主 訴：背部の紅色から褐色の腫瘍

家族歴・既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：初診の約 4 ヶ月前に背部の皮疹に気付いた。時々搔破により出血するため近医受診し、当科紹介され初診となった。

現 症：背部に紅色から褐色の丘疹が房状に集簇し、径約 1.5 cm 大となっている(図5)。そ

図 1. 初診時臨床像

図 2. 病理組織所見 (HE 染色, 弱拡大)

図 3. 病理組織所見 (HE 染色, 強拡大)
良性の poroma 様 nest (矢印) と管腔様構造を認める

図 4. 病理組織所見 (HE 染色, 強拡大)
細胞異型を認める

の周囲に紅斑、褐色斑を認め、軽度の瘙痒もある。所属リンパ節は触知しない。

病理組織学的所見：症例 1 とほぼ同じ所見で、腫瘍はほぼ upward growth で、角質増殖、表皮肥厚があり、表皮内に境界明瞭な腫瘍細胞の nest がある (図 6)。腫瘍細胞は基底細胞様細

図 5. 初診時臨床像

図 6. 病理組織所見 (HE 染色, 弱拡大)

図 8. 病理組織所見 (HE 染色, 強拡大)
良性の poroma 様 nest (矢印) を認める

胞、胞体の明るい細胞、細胞質の好酸性が強い細胞からなっている。所々で管腔を形成し、一部では囊腫状となり (図 7)、メラニン顆粒を有している。真皮上層はリンパ球、形質細胞の細胞浸潤とメラノファージが認められる。腫瘍の一部には良性の poroma 様の nest も認められるが (図 8)、異型性のある部分、分裂像も認められる (図 9)。腫瘍に隣接して存在する褐色斑は脂漏性角化症の組織像であった。

治療および経過：生検の結果 Malignant Hidroacanthoma Simplex と診断し、局麻下に、腫瘍周囲の紅斑から 8 mm 離して、筋膜上で切除した。術後 5 ヶ月経過するが、今のところ再発はない。

組織化学および免疫組織化学的所見 (表 1) : Malignant Hidroacanthoma Simplex の S-

図 7. 病理組織所見 (HE 染色, 強拡大)
管腔様構造 (矢印) を認め一部で囊腫状を呈している

図 9. 病理組織所見 (HE 染色, 強拡大)
細胞異型を認める

表 1. 組織化学的および免疫組織化学的所見

	Case 1	Case 2	porocarcinoma
PAS	(+)	(+)	(+)
S-100	(-)	(-)	(-)
CEA	(-)	(-)	管腔様構造部のみ (+)
EMA	(-)~(±)	(-)~(+)	?

100, CEA, EMA について報告しているものが少ないため porocarcinoma と比較した。CEA は正常エックリン腺において分泌細胞では胞体内全体に granular に陽性であり、導管から表皮内汗管にかけて腔内貯留物および内腔壁が強陽性である。S-100 蛋白は分泌細胞にのみ存在する。EMA は分泌部の内腔膜縁、細胞間腺腔と真皮内導管の内腔膜縁に存在する。また poroma では EMA は陽性を示す。症例 1, 2 ともに porocarcinoma と同じような結果を得た。

考 察

1956年 Pinkus²⁾らは表皮内汗管の良性腫瘍として eccrine poroma を初めて報告した。1968年三島, 森岡^{3,4)}により表皮内エックリン汗管由来の腫瘍を eccrine poroma, eccrine poroepithelioma, eccrine porocarcinoma に分類した。それによると poroepithelioma は poroma と porocarcinoma の中間にあり porocarcinoma ほど悪性ではないが、細胞に異型がみられ良性ではない腫瘍と解釈される。しかし poroepithelioma と porocarcinoma との区別が明確でないため、症例 1, 2 ともにはじめは porocarcinoma と診断した。

poroma は腫瘍の存在部位から以下の 3 型に分類されている

1) 腫瘍が表皮内に限局しているもの (Smith & Coburn 型)。

2) 腫瘍が表皮から真皮に連続性に存在する

もの (Pinkus 型)。

3) 腫瘍が主として真皮内に存在するもの (Winkelman & Mcleod 型)。

1) は 1956年 Smith & Coburn¹⁾が hidroacanthoma simplex という概念で提唱し、それには benign type と malignant type が存在し、malignant type はさらに invasive type と *in situ* type に分けている。invasive type の報告^{5)~7)}は非常に稀であり、また porocarcinoma が Borst-Jadassohn 現象を起こしたものの鑑別はしばしば困難となる。一方、*in situ* type は時々報告されており^{8)~15)}、治療は局所の単純切除のみで転移、再発はほとんど認められない。また、麻生ら¹⁶⁾の報告では porocarcinoma は比較的高率に転移 (27%), 再発 (9%) が認められる。*in situ* type は今まで報告されてきた porocarcinoma とはやや性格が異なるため別個に扱った方がよいと思われる。よって我々の症例も porocarcinoma とするよりも *in situ* type の Malignant Hidroacanthoma Simplex とした方がよいと思われた。

文 献

- 1) Smith, J.L.S., Coburn, J.G.: Hidroacanthoma Simplex. Br. J. Dermatol., 68: 400-428, 1956.
- 2) Pinkus, H., Rogin, J.R., Goldmann, P.: Eccrine poroma. Arch. Dermatol., 74: 511-521, 1956.
- 3) 三嶋豊, 森岡貞雄: 表皮内エックリン汗管の腫瘍性分化. 日皮会誌, 78: 350-356, 1968.
- 4) 森岡貞雄, 三嶋豊: 真皮内エックリン汗管及び汗

- 腺の腫瘍性分化, 良性表皮腫性並びに癌性腫瘍.
日皮会誌, 78 : 357-362, 1968.
- 5) Ishikawa, K.: Malignant Hidroacanthoma Simplex. Arch. Dermatol., 104 : 529-532, 1971.
 - 6) Moreno, A., Salvatella, N., Guix, M., et al.: Malignant Hidroacanthoma simplex. Dermatologica, 169 : 161-166, 1984.
 - 7) 村野早苗: Bowen病様外観を呈した Eccrine Porocarcinoma の1例. Skin Cancer, 8 : 463-465, 1993.
 - 8) 日戸平太, 赤井昭: Bowen病様細胞変化を伴ったエックリン汗口腫. 皮膚臨床, 12 : 787-792, 1970.
 - 9) 倉員正俊, 本房昭三: Hidroacanthoma Simplex. 西日皮膚, 38 : 572-577, 1971.
 - 10) 野崎重之, 上田宏一, 実川久美子, 他: Bowen病様細胞変化を示した Hidroacanthoma Simplex. 臨皮, 41 : 621-624, 1987.
 - 11) 山元真理子: 興味深い組織像を呈した Hidroacanthoma Simplex. 皮膚臨床, 31 : 151-154, 1989.
 - 12) 川端康浩, 松山友彦, 乃木田俊辰, 他: Malignant Hidroacanthoma Simplex の1例. 皮膚臨床, 32 : 1901-1905, 1990.
 - 13) 笹岡竜次, 中山英俊, 三原基之: Hidroacanthoma Simplex with Porocarcinoma *in situ* の2例. Skin Cancer, 9 : 181-184, 1994.
 - 14) 甲斐美咲, 福田知雄, 石川亜紀子, 他: Eccrine poroma より生じ, 組織学的に Jadassohn 現象を呈した eccrine porocarcinoma の1例. 臨皮, 50 : 632-634, 1996.
 - 15) 赤坂俊英, 昆宰市: 巨大局面を呈した Pigmented Hidroacanthoma Simplex. 皮膚臨床, 38 : 1455-1457, 1996.
 - 16) 麻生和雄, 吉川賢一, 瑞穂豊, 他: Pigmented Eccrine Porocarcinoma. 西日皮膚, 52 : 933-941, 1990.